

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>【申請書に記載された「上位目標」】</p> <p>対象地域にて、コミュニティ・ベースの母子保健サービスを強化することにより、妊産婦、5歳未満の乳幼児の健康状態が改善される。</p>
(2) 事業内容	<p>当該事業では、妊産婦・乳幼児の健康増進につながる知識・行動・態度を啓発し、保健サービスの質およびアクセスを改善できるよう、働きかけていく。上半期においては、事業実施に必要な職員の採用、職員の能力強化、物資調達、地域でのアドボカシー会合、ベースライン調査などを行い、今後、本格的に事業を展開する基盤を整備した。さらに、村の保健栄養チームの結成などの主要な活動も開始している。一方で、事業開始直後の水祭り休暇（4月）や5月に始まった雨季の影響で、当初の活動計画と比して遅延が生じている。以後、申請書に明記した事業内容に沿って、進捗を述べる。</p> <p>事業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 当該事業に関与する職員の採用を行い、12名のプロジェクトオフィサーおよび12名のプロジェクトアシスタントに対して、リプロダクティブ・ヘルスや新生児ケア、ケースマネジメント、さらに、地域住民の参加促進に関する研修を行った（6、7月）。 ✓ プロジェクトマネジャー、プログラムアドバイザー、グラントオフィサーが、各地域事務所にて、当該事業の運営、資金管理および技術的な知識に関する指導を行った（6、7月）。 ✓ 12名のプロジェクトオフィサーおよび12名のプロジェクトアシスタントに対して、ベースライン調査の手法に関する研修を実施し（7月）、合計300の対象村において、2,863名を対象に聴き取り調査を実施した（7、8月）。 <p>1. ボランティアによるコミュニティ・ベースの保健栄養の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 当該活動は、2.において、ボランティアの育成が完了後、11、12月に本格的に実施される予定である。 <p>2. コミュニティでの疾病予防と母子保健ケアの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 6つのタウンシップで、RHボランティアを対象とした妊産婦ケア研修および新生児ケア研修が開始され、危険兆候を含む産前・出産・産後ケア、家族計画、HIV・性感染症の予防、微量栄養素の摂取、母乳・補助食の栄養指導などの新生児ケア、予防接種、モニタリングの手法、助産師との関係構築などについて学習している（8月、9月前半）。 ✓ 男性の参加に関する研修やケースマネジメントに関する研修が9月後半から10月にかけて実施される予定である。 <p>3. 医療専門家との連携による保健システムの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ マグウェ、バゴ地域の保健局および対象とする6タウンシップの保健局との会合を持ち、助産師向け研修、タウンシップ医療

	<p>従事者の継続研修への支援、補助助産師の人材育成支援、サブ・ルーラル・ヘルス・センターの建設支援に関する調整を行った。特に、各タウンシップの補助助産師の育成に関して、計画では、13-14名程度としていたが、補助助産師不足から、20-25名へ増加することとした。さらに、サブ・ルーラル・ヘルス・センターに関して、計画では各タウンシップで2件としていたが、それ以上の必要性が示唆された。補助助産師の選考およびサブ・ルーラル・ヘルス・センターの建設候補地の選定などにつき、今後、より具体的に交渉していくこととなった（6、7月）。</p> <p>4. コミュニティでのケアの質の向上と定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 当該事業の全ての対象村においてアドボカシー会合を開催し、事業目的と活動、地域住民の参加の重要性を説明した。村長や5歳未満の子どもを持つ母親を含む、合計15,665名（女性：10,308名、男性：5,357名）が参加した。 ✓ CCMP・RHボランティアとなる人材の選考を行い、300村中、298村において村の保健栄養チームが結成された。596名のCCMPおよび596名のRHボランティアが既に選考されている（7、8月）。 <p>5. 評価および当該事業の成果に関する情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 当該活動は第3年次に主に実施される予定である。
<p>（3）達成された効果</p>	<p>事業開始直後の水祭り休暇（4月）や雨季の影響で、当初の活動計画と比して遅延が生じているものの、今後、各村にて選ばれたボランティアの人材育成を行い、保健栄養教育や母子保健サービスへのアクセス向上のための本格的な活動を実施する環境が整いつつある。とりわけ、99%以上の対象村、つまり、298村において村の保健栄養チームが結成されたことは、主要な活動の成果であるといえる。</p> <p>また、既にベースライン設定のための聴き取り調査も行っており、小児感染症の危険兆候を理解する母親の割合や完全母乳育児を実践する母親の割合など、主要な指標に関して、介入前後の変化を検証し、事業終了後には、その成果を測定する。</p>
<p>（4）今後の見通し</p>	<p>一部の活動に遅延が生じているものの、今後、複数の人材育成研修を統合して実施するなど工夫しながら、遅延を取り戻していく。</p>